

単元名：欧米の進出と日本の開国

開国と不平等条約

(全6時間扱い中 第4時)

授業日時 2019年9月4日(水)第1校時

授業学級 2年B組

授業会場 2年B組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

江戸幕府が、国内では意見がまとまっていないにも関わらず、外国からの圧力に屈して、開国へと踏み切り不平等条約を結ばされたことを説明することができる。

(2) 授業のポイント

- ・前時までにイギリスが三角貿易を行い、インドや中国を支配していったことを学習した子どもたちが、鎖国していた日本が開国に踏み切った理由について考える。
- ・当時の日本の内部と外部の状況をもとに考える。

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	1. 日本の鎖国中の外国との関わりがわかるパワーポイントをみせる。	○「日本は何度外国に開国を迫られても拒否していたよね。」 ◇日本が開国反対だったことがわかるようにする。	8
	【学習問題】なぜ日本は開国し、日本にとって不利な条約を結んだのだろうか。		
	2. 学習問題の予想をたてる。	○「学習問題を予想しよう。」 ◇生徒の意見をもとに学習課題につなげていく。	7
【学習課題】日本とアメリカの力関係に着目して考えよう。			
展開	3. 配布資料を読み取り、学習問題を解明する。	○「資料を読み取ってわかったことをワークシートにまとめよう。」 ◇1つ1つの資料の読み取りで終わっている生徒には複数の資料をつなげて読み取るよう助言する。 ◇机間巡視をしながら指名計画を立てる。	15
	4. ワークシートに記入したことを全体に発表する。	○「わかったことを資料1から発表してください。」 ◇起こったことつながりがわかりやすくなるような板書をする。  【評価】江戸幕府が、国内では意見がまとまっていないにも関わらず、外国からの圧力に屈して、開国へと踏み切り不平等条約を結ばされたことを説明することができる。(学習シート)	15
終末	5. 振り返りをする。	○「学習問題に対するまとめを記入しよう。」	5